



福島県

小野田 恵佳さん(小野田)

取材者：認定特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ 古山・松田
取材日：8月13日

心に響く影響力を持った発信者になりたい

恵佳さんは千葉県柏市の麗澤大学3年生ですが、「新型コロナウイルス感染症」の拡大防止に伴い、大学がリモート授業となり、履修する授業はほとんど自宅で受講できるため、今は二本松市の実家でご両親や妹さんと過ごしていらっしゃいます。

この取材は、ご実家のすぐそばにある、NPO法人コーヒータイムが経営するカフェ「OBRI(オブリ)」で行いました。浪江を思う恵佳さんとの新しいご縁が、またここで生まれたら素敵なことでしょう。



▲カフェ「OBRI」の入り口にて。いろんな人に出会いながら、どうぞお健やかに

◆3・11と避難の記憶
大堀小学校の5年生でした。大掃除が終わって着替えをしていた時に地震が起き、全校生が校庭に避難しました。私と2つ年下の妹は一緒に、迎えに来た両親、兄と家に帰る途中に買出しに立ち寄ったコンビニは停電で、苧野のコンビニでやっと買物ができました。避難しようとした近所の屯所は地区の人たちでいっぱい、車中泊になりました。避難指示の前に津島に避難して2日。埼玉県の親戚に1、2週間お世話になった後、二本松市の体育館から温泉旅館、その後アパートは2回引っ越ししました。3、4年前に浪江の家を壊して、今の二本松市油井の家

◆興味・関心が多いのが悩みの種
避難所で福岡県から来たボランティアさんに出会ったことがきっかけで、中学生から高校1年生の頃は、JICA(ジャICA(独立行政法人国際協力機構))のように、世界で誰かを救える人になりたいと思っていました。県立安達高校に進んで2、3年生になると、やってみたいことが多すぎて自問自答の日々でした。

◆「新型コロナ禍」の一年
大学はオンライン授業になり、住んでいた寮も4月に閉鎖になったため、実家に戻っています。福島を知る良い機会と捉えています。福島のみなさんと一緒に関わったり、福島を伝えるために、学びの機会を増やしたり、家族と話をすることで発想を切り替えています。この環境に適応して、もっと成長したいです。

大学生になって、まちづくりや地域活性化、ジェンダーやLGBTなどのテーマに加えて、心理学や音楽などにも興味をひかれていて、今は世界で起こっている出来事に目を向けながら福島や浪江町で活躍したい

7月から、フェイスブックで「SDGs朝活(エスディーズアサカッ)」の運営メンバーになり、大学の協力も得ながら、様々な大人とプロジェクトに取り組んでいます。この活動を通じて、影響力を持った発信者、例えばインフルエンサーのような存在になれたら、次のアクションにつながるのではないか



浪江のこころ通信

第112号

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年3月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化する中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

「浪江のこころプロジェクト」は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信(※1)」を通してお届けし、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※2)が中心となり、全国各地のNPO、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のこころ通信」を編集・発行しています。

※1 浪江のこころ通信は、町民の皆さんがお話した「こころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ったまとめた原稿をほぼ原文のまま掲載しています。
※2 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、NPO、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信」第112号への感想をお寄せください。
【連絡先】〒979-1592
浪江町大字幾世橋字六反田7番地2
「浪江のこころ通信」宛て
FAX 0240(34)4593

